

ドイツ語が飛びかう中で、どうやら ICE は来ないらしいということが分かった。

混雑の中で対応に当たっている駅員に、ステュットガルトと繰り返したら、近くに止まっている出発間際の電車を指し「これに乗れ」と言っているらしい。

思わず飛び乗ったが、満員状態で身動きもとれない。いったいどこ行きの電車で、果たして目的地に行くのかどうかも分からず、不安になって次の駅で降りてしまった。



市役所前広場からハイデルベルグ城を望む

しかし、そこは川沿いの無人駅で、あたり一面の雪景色の中、タクシーも人通りもない。一体ここはどこだろうと落ち着いて周りを見渡すと、丘の上に昨日の古城が見えた。

これなら宿泊したホテルまで何とか歩いて行けると思い、雪の積もっている道を、重いトランクを引きずりながら、なんとかたどり着いた。

ホテルのフロントで列車の事情を聞いたが、何も分からないというので荷物を預け、タクシーを呼んでもらって事情を調べに駅に向かった。

運転手に「駅に行ってくれ」と告げた途端、「駅に行っても列車は来ないぞ」という。「何故だ」というと、「雪の重みで橋が落下し、不通になっている」と、助手席にあった新聞を見せてくれた。そこには線路に落下している鉄橋の写真が載っていた。

駅のインフォメーションで事情を聞いたが、開通の見込みは分からない。マンハイムに出ればミュンヘンへは ICE が走っていることが分かり、ステュットガルト行きをあきらめ、ホテルに戻ってもう一泊することにした。

翌朝、タクシーでマンハイムに向かった。女性ドライバーが運転するベンツで、雪のアウトバーンを疾走するという想定外の経験をした。



雪のアウトバーンをベンツタクシーでマンハイムへ

ミュンヘンは、オリンピックの時に中心部一体を歩行者の街にするために、電車や車の交通機関の再整備を含めた都市の大改造をしたことで知られていた。

そうした歩行者ゾーンを中心に視察するとともに、美術館やオリンピック施設などを見て回った。雪景色の中、あちこちでクリスマスマーケットが開かれていた。



雪の広場でクリスマスマーケット



テントのオリンピック会場

ミュンヘンからローマへは、AZ477 便で向かった。



カラカラ浴場



フォーリンベリアル通りからコロッセウム



ジョットの鐘楼よりフィレンツェの街並み



修復中のガラリア



モウラントネリアーナ

ローマは、ドイツの雪景色から開放されて明るく暖かい気候で、歴史的な施設に満ち溢れた街には圧倒された。

特にカラカラ浴場跡の巨大なスケールには驚かされた。

フィレンツェ、ミラノ、トリノと列車で移動し、それぞれ目的の街並みや建物を探しながら歩き回った。

ミラノのガラリアは修復中で、足場が組まれたり、ガラス屋根の下に落下物防止の網がかかったりして、期待していた美しい大空間を十分に体験できず残念だった。

トリノから次のパリへはリヨン経由で、IC と TGV を乗り継いだ。

リヨン行きの IC の座席はコンパートメントで、イタリアの婦人と乗り合わせた。

「どこからきたのか」「どこへ行くのか」など聞かれて話をしてしたが、婦人に「どこに行くのか」と尋ねた途端、急に深刻な顔になり「フランスで働いている主人が重大な事故に遭い、危ない状況だと昨夜連絡があって病院に行く途中だが、詳しい状況が分からず非常に心配だ」と今にも泣きだしそうな表情をして顔を伏せてしまった。「それは大変なことで心配でしょう」とまでは何とか言ったが、自分の英語力の問題もさることながら何を言っているかわからず、コンパートメント内は沈黙状態になってしまった。

そのうち国境付近の駅で、男性が二人、列車に乗りこんできた。

婦人はそれに気が付き、自分に「リラはいくら持っているか」などを聞き、男性が我々のコンパートメントに来ると何やら話をしてしたが、二人はちらっとこちらの顔を見ただけで行ってしまった。

婦人が上手く対応して、自分は何もせずに、出国か入国の手続きが済んでしまったようだ。

リヨンに着く前の駅で、親切な婦人は「よい旅を」と声をかけてくれて降りて行った。

その後、自分はどうしたら良かったのかが心に引っ掛かったまま、リヨンに着くまで窓の外の流れる風景をぼんやりと見ていた。

リヨン駅から TGV に乗るには、ユーレイルパスの他に座席指定券を購入する必要があった。

イタリアからフランスに入ったばかりでフランを持っていなかったの、トラベラーズチェックを現金に換える必要があり、駅のインフォメーションセンターに行って英語の出来る人を探し、若い女性の職員が対応してくれた。

当時は今のようにカードではなく、海外旅行はトラベラーズチェックが安全とされていて、東京銀行のトラベラーズチェックを持って旅行をしていた。

交換場所を聞き、訪ねると「こんなトラベラーチェックは交換できない。VISA とか AMEX でないとだめだ」と冷たく突っ返された。

インフォメーションセンターに戻り、銀行の場所を聞くと、駅を出て道路の反対側と言われ、外に出るとそこはデッキが立ちふさがっていて、銀行の閉店まで 5 分を切っている時間で重いトランクを引きずりながらではとても間に合わない。

再びインフォメーションセンターに戻り、先程の女性に事情を話して、どうしたらよいだろうかと相談した。

その女性はしばらく考えていたが、黙って奥に行ってしまった。

やがて戻ってくると、手に座席指定券を持っていて黙って差し出した。

当然、現金はないし戸惑っていると、「列車の時間が迫っているから早く持って行け」と。

後で何か対応出来るかと「名刺か何かないか」と聞いたが「そんなものはない」と言い、せかれるままにお礼を言ってホームに向かった。

既に列車は来ていてパリに向かったが、トリノからの一連の出来事が頭から離れないままに、窓の外に穀倉地帯の風景がただ流れているだけの TGV の旅だった。



リヨン駅で TGV

パリのリヨン駅に着いて両替を済ませ、滞在中世話になる友人の会社に電話し、おおよその場所を聞いてタクシーで向かった。降りた場所は同じような重厚な造りの建物が並ぶ業務街で、どのビルに会社があるか分からない。

公衆電話もないし、トランクを引きずりながら苦勞してやっと勤務時間内ぎりぎりに辿り着くことが出来た。

パリでは、「ポンピドーセンター」や、まだ建設半ばであったが中央市場跡の再開発「フォルムデアール」の新しいプロジェクトが、歴史的な街並みの中にあって非常に個性的な形態をしていた。

建築協定で守られた統一的な街並みがあってこそ、シンボル施設として対比的なデザインが市民的に受け入れられ、存在し続けられるかは、エッフェル塔の時と同様だと思った。



パリの街並みとポンピドーセンター



パリの街並みとフォルムデアル（中央市場跡再開発）



美術館に改装中のオルセー駅



新凱旋門（グランダルシュ）模型



デファンス地区の集合住宅



マルヌバレニュータウンの集合住宅とピカソアリーナ

ルーブル美術館の増改築によるガラスのピラミッドはまだなかったが、重厚な石造の建築物に囲まれた中庭に、ガラスのピラミッドで対比的な調和を図った建築は魅力的で、完成したら是非見てみたいと思った。



完成したルーブル美術館のガラスのピラミッド

また、歴史的なオルセー駅の建物をリニューアルして、美術館にする工事が進行中だった。

デファンス地区のラ・デファンス地区整備公社（E.P.A.D.）で、デファンスのプロジェクトについてヒアリングをした。

超高層ビルのタイプが、より良いオフィス環境を求めて、時代によって形態が変化してきたことなどを知った。

プロジェクト全体の模型があったが、およそ一辺が 100m の巨大な立方体の建物で、横に空洞があってゲート型になる新凱旋門（グランダルシュ）を見て、この建築も完成したら是非見てみたいと思った。



完成した新凱旋門（グランダルシュ）

郊外部のセルジポントワースやマルヌバレなどのニュータウンの街並みは、パリ中心部の歴史的な街並みのコンセプトと対照的で、歴史的な規範で押さえられていた感性が、その呪縛から解放されて自由奔放になった感じがした。

カモンベールチーズのようなピカソアリーナは、日本ではまだ紹介されておらず、たまたま見つけてびっくりさせられた。

モンマルトルのサクレクール寺院の前で、ジブシーの子供 3 人組に襲われそうになったが、よくある手口と予備知識があったので、危うく難を逃れることが出来た。

パリでは友人夫妻にすっかり世話になり、シャルルドゴール空港からロンドン経由で、ニューヨークのジョン F ケネディ空港へ AF808 便と BA175 便を乗り継いで飛んだ。